市政ニュース

増浦行仁写真教室
「大好きな人の写真を撮ってみよう!!」開催

9月2日、本庁舎前の豊岡子育て広場で、増浦行仁（ますうらゆきひと）さんの写真教室が開催され多数の親子が参加しました。

増浦さんは、フランス国立図書館の「世界の100人」にも選ばれた世界的な写真家です。本市の「豊岡に居ながらにして一流のものに触れ、豊岡に根ざしながら世界を見る、あるいは世界で活躍をする子どもを育てたい」という理念に共感し、写真展と写真教室を開催しました。

参加者らは、会場内で思い思いに写真を撮り、増浦さんからアドバイスをもらいました。また、撮影後の質問時間で「どうしたら写真家になれますか」との質問に「名刺をあげます。期待しています」と答え、笑いを誘う一幕も。増浦さんは「以前、写真家はなりたい職業の上位でしたが、デジタルカメラの普及で、誰でも気軽に写真が撮れるようになり、写真家を目指す人が少なくなった。将来、写真家を目指す子どもが増えるきっかけになればうれしい」と語りました。

▲「神の宮」増浦行仁写真展

▲増浦さんに指導を受けながら撮影する子ども

新副市長に前野文孝氏就任

平成21年9月に就任した真野 毅副市長の任期満了に伴い、9月15日付けで、新しい副市長に前野文孝氏（前豊岡市参与）が就任しました（任期は4年）。

豊岡市副市長
前野文孝

～初めての試み「風水害を想定」～
第3回市民総参加訓練実施

8月27日、本市で初めて大雨洪水を想定した市内一斉避難「市民総参加訓練」を実施しました。市民らは、新しい「防災マップ（平成28年11月発行）」を活用し、あらかじめ決めていた避難場所や避難ルートを確かめました。

参加した区は、市内の約85％に当たる306区（町内会）。小・中学生約2800人を含む市民約3万4千人が、防災行政無線放送の「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」を合図に避難を開始。その他「災害時要援護者の個別支援計画」に基づき、一人暮らしの高齢者などで自力で避難ができない人の避難支援訓練なども行いました。

また、市民総参加訓練終了後、土のう作りや避難所運営、本部詰め所の開設など、独自の訓練を行った区（町内会）も多数ありました。

▲豊岡北中学校で行われた区独自による避難所運営訓練

～主な市政の動き～

【8月】

11日・植村直己語録集「植村直己さんがイノチかけてつかんだコトバ」発刊
14日・「コウノトリ育むお米」香港販売プロモーション（～20日）
17日・第1回縁結び会議
27日・防災訓練「市民総参加訓練」
・豊岡市文化芸術政策シンポジウム
28日・「神の宮」増浦行仁写真展in豊岡（～9月7日）
・豊岡市行政改革委員会
29日・豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会

【9月】

1日・市議会定例会開会（～29日）
・城崎子育て広場「城崎駅通り公園」、日高子育て広場「日高町民公園」リニューアルオープン
5日・豊岡市歴史的建築物保存活用専門委員会
6日・最高齢者・最高齢夫婦祝福訪問
9日・「国際社会の新たな目標（SDGs）と豊岡市の実践」シンポジウム
10日・内閣府特命担当大臣（地方創生、規制改革）が本市視察

～コウノトリ野生復帰の努力が付加価値に～
「コウノトリ育むお米」香港販売プロモーション実施

8月14日から20日まで、香港で、JAたじまや市職員らがコウノトリ育むお米の販売促進を行いました。

香港へは、今年5月末から輸出を始めています。世界の国・地域の中で、日本からの商業ベースでの米輸出量が最大で、重要なマーケットです。

香港中心部の高級スーパー2店舗に特設ブースを設け、精米機や炊飯器を持ち込んで試食販売を行いました。この試食販売で、これまでに香港に輸送した無農薬500kgを完売し、今月から順次、追加納品をしています。

また、香港政府を表敬訪問し、市長が環境長官と面談。本市のコウノトリ野生復帰の取組みと同米の輸出開始を報告しました。

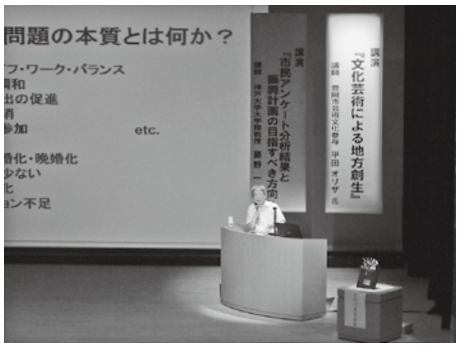
▲多くの人でにぎわった高級スーパーでの試食販売

～文化芸術による「小さな世界都市」の実現～
「豊岡市文化芸術政策シンポジウム」開催

「地方はつまらない」。そんなイメージを払拭するため、本市は文化芸術振興と人口減少対策を関連づけた「豊岡市文化芸術振興計画」の策定を進めています。8月27日、豊岡市民プラザで、文化芸術の力で楽しさ、豊かさを実感できるまちづくりに向けて、これからどうすれば良いかを一緒に考える豊岡市文化芸術政策シンポジウムを開催しました。

「文化芸術による地方創生」と題した平田オリザさんの講演では、人口減少対策として、教育と文化を両輪とし、女性や子育て世代に選ばれる文化的なまちづくりや、幼いころからコミュニケーション教育や本物の文化芸術に触れることで「自己決定能力」を磨き、豊岡で暮らす価値を認める若者を増やすことが重要であると説きました。

パネルディスカッションでは、地方創生の核となる高校生、大学生、子育て世代から見た文化的魅力のある『面白い』まちについて意見を交わしました。



▲平田オリザさんの講演

中貝市長の徒然日記 119
下り列車に乗った劇作家

先月市内で開かれたアートのシンポジウムでのこと。壇上から平田オリザさんが「いずれ劇団の本拠を豊岡に移します。そのときは私も移ってきます」と発言されました。

平田さんは、世界的に活躍する、日本を代表する劇作家です。突然の発表に、会場は一瞬言葉を失い、一呼吸おいて大きな拍手が沸きました。

傍聴していた神戸新聞の記者は「大ニュース！」と興奮。記事がネットに配信されると、今度は演劇に関心のある方々が騒然となりました。平田さんが主宰する劇団「青年団」のホームページはアクセスが殺到してダウンし、ネット上では「嘘だろ？」「腰を抜かしました」「時差ボケ吹っ飛ぶほどの衝撃」などという言葉が飛び交いました。

平田さんのお考えは、以前からお聞きしていました。そしてその準備は静かに進行していました。東京五反田にある劇団の倉庫機能の大半は、既に江原駅近くに移転しています。稽古場候補地のリストアップも作業が進んでいます。

平田さんは書いておられます。「私は、現在、1年の4分の1を海外で過ごし、3分の1を東京以外のところで過ごしています…豊岡滞在中に、但馬空港から朝の飛行機で伊丹に行って阪大で授業を行い、夕方の便で豊岡に戻ったことも何度かあります…東京にいなければならない理由が、全くなくなってしまったというのが実情です」。

世界トップクラスの創造環境、城崎国際アートセンターで滞在制作を経験し、安定し集中して作品づくりができる環境を望む気持ちが一層強くなった、豊岡でそれができる、とも述べておられます。

日本中の地方が子どもたちを上り列車に乗せて送り出してきました。子どもたちは帰ってこず、地方は衰退の道をたどってきました。しかし、今、平田さんは自ら下り列車に乗って豊岡に移住する、とおっしゃっているのです。こんなに嬉しいことはないです。